



【自衛隊札幌病院創立66周年記念行事】

令和3年6月12日

令和3年6月12日（土）自衛隊札幌病院（病院長 鈴木陸将）は、自衛隊札幌病院創立66周年記念行事を挙行了。昨年は新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ中止となったが、今年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため規模を縮小し、職員のみによる記念式典と病院の歴史資料等に関する展示を実施した。

鈴木病院長は式辞で「この2年間を振り返り特筆すべきは新型コロナウイルス感染症対応である。ダイヤモンドプリンセス号関連の災害派遣から始まり、最近では自衛隊大規模ワクチン接種センターへの医療従事者の派遣など、感染流行当初から現在までの長期間にわたり、職員一丸となって、国及び地域レベルにおける新型コロナ感染症対策の重要な一翼を担っている。そのような環境の中でも、陸上自衛隊は、いついかなる事態が起きても国民の生命・財産及び領土を断固として守り抜く態勢を維持しなければならない。今後も、この自衛隊札幌病院が、各種事態に「即応」とともに、取り巻く環境の変化を先読みしつつ、適切かつ柔軟に「進歩」を重ねて益々発展し、自衛隊衛生における中核型基幹病院、また地域の公的医療機関として、職員一同がその責務に「誇り」をもって勤務し国民、地域の住民、隊員及び家族の負託により一層応えられるよう、「信頼される自衛隊札幌病院の創造」に邁進していく。」と述べた。



記念式典



執行者式辞



病院の歴史等の展示